

一般質問

竹内和順
議員

- ESD教育について
- 商工業の振興について

そのほかの質問
 ・エコ環境都市の実現について
 ・鳥獣害防止対策について



問 小学校でESD教育の持続可能な社会づくりの取り組みを推進するに際しては、どのようのESD教育の推進を図っていくのか。
答 勝山市のESDでは、環境について学ぶだけでなく、大切に育てる豊かな人間性を育成する「ふるさと教育」に力を入れていく。すなわち、子どもたちには、家族や友達や地域を大切に思い、社会とのつながりを尊重する態度を育てる重要な学びの場となる。こうした学校教育により、勝山市の児童・生徒には、ESDの精神を、小学校や、さらには大人になっても持ち続けてほしい。

問 平成22年国勢調査によると、勝山市の人口は、前年比で減少している。また、就業者数は減少している。この状況を踏まえ、市として、人口の増加や就業者数の増加に向けた施策を講じていくのか。
答 過去の国勢調査の数字から、現在も概ね約4,000人の方が、市外へ働きに出て、市内に来ておられるものと思われ。市では今年度、学校へ職員が直接出向き、市内の産業構造や企業を紹介を行った。今後も職員の勝山の発展に寄与したいという期待を込め、また福井大学、関西学院、井工業大学、関西学院、大学、看護福祉学部との間で包括的な官学連携を行っているほか、連携事業を行う個別の連携も含め、企業との技術向上や、企業の技術者を進めたい。

一般質問

吉田清隆
議員

- 新体育館の維持管理費と既存体育館のあり方について
- 主要地方道篠尾勝山線について

そのほかの質問
 ・学校再編計画について
 ・新体育館について



問 完成後のランニングコストは年間約2,000万円とされているが、内外装や設備機器及び備品等の更新を考えると、将来住民に過大な負担がかかると思定する。
答 新体育館完成後の既存体育館の活用をどのように考えているのか。勝山市の公共施設の住民1人当たりの延べ床面積は、5㎡後半であり全国や福井県の平均を上回っている。この数値を下げることに沿って、公共施設の維持管理費が削減されるのではないかと。

問 勝山市には、スキージャーム、恐竜博物館、平泉寺等観光資源は豊富にあるが、国道を補完する広域的な路線である主要地方道篠尾勝山線の全線開通により、福井市、大野市、池田町、鯖江市等との交流の動脈として、より多くの観光資源を抱えることになる。
答 観光客の方々に、さらに幅広く観光地の選択肢を広げていただくことで、勝山の発展につなげていくため、早期の全線開通を望む。多方面において必要な道路であるとの認識のもと、毎年県への最重要要望事項としている。昨年は福井・勝山両市長が改良促進期成同盟会等関係者の皆様と、直接知事に対して要望活動を行っている。今後、この主要地方道篠尾勝山線の必要性を前面に打ち出し、粘り強く要望を継続していく。